坂戸市立桜小学校

様式3　まとめ（自己評価および学校関係者評価）

坂戸市学校評価システム

令和6年度　　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立桜小学校
実施日	令和7年2月12日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価　A：よくできている　　B：概ねできている　　C：あまりできていない　　D：できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・特別支援教育の視点で特色ある学校づくりを目指している。 ・職員会議などで地域性や桜小学校の児童にあった学校づくりを話し合い実践している。 ・組織的・計画的推進はしているが、変更等があった時にその後の見直し等がされていないこともある。	B	・外国から転入の児童も楽しく学校生活を送れているように思える。 ・特別支援教育での特色ある学校づくり評価。職員会議での学校づくりの話し合い評価。 ・支援級が充実している。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	・本当に起きた時に活かせるための避難訓練を行えるように、手順や指導すべき内容の確認などを職員で研修してのぞめると良い。 ・災害や事故のために研修や訓練を行っている。 ・子どもたちの訓練は、行われている。教員がどう動くのか、担当不在時の対応や移動教室時での事故などに対応できるかは不安である。 ・避難訓練や交通安全教室を行い災害や事故に備えている。 ・交通安全教室では、学校運営協議委員さんからお話をしていただき、子どもたちの学びに繋がった。 ・養護教諭を中心にエピペンの使用法等、食物アレルギーの研修を行った。	B	・自転車の乗り方、教室開催等安全のための教育を実施している。 ・定期的な避難訓練、交通安全教育の開催及び研修評価。 ・エピペンの使用方法や食物アレルギーの研修は担任も含め、全職員が学習してほしい。 →年度当初と3学期始めに今年度は研修を2回実施した。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。 （市共通項目）	B	・年度初めに決めた校内研修の他に、情報共有のための企画委員会、校内就学支援委員会などを定期的に行うのはどうだろう。 ・管理職から声掛けをしてもらえている。 ・休暇は、以前よりも取りやすくなったと感じる。一方で、まだまだ皆で支え合わないと気がつく人や子どものいない人、独身の人などに仕事が集中しているように感じる。 ・管理職からの指示もあり、時間外勤務は減っている。 ・見直しがとても進んでいる。 ・行事の精選はもう少し行える余地があると思う。 ・ノー残業デー等が有効に機能していると思われる。 ・声掛けはされているが、具体的な策があるとなおよい。	A	・先生個人個人に偏った負担がかからないようなシステムになるとよいと思う。 ・管理職の声かけ及び時間外減少評価。一部の人への仕事の集中改善の必要あり。 ・ノー残業デーは帰りだけに設定されているのか？朝早くから出勤されている事がある様に思う。 →定時退勤を推奨している。超過勤務月45時間以内0人達成。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。 （市共通項目）	B	・ペアやグループを積極的に取り入れている。 ・市で、授業のスタイルを提案することは良いことだと思う。「学び合い」コの字やペア、グループなどもやったことがなかっただけによさがわかった。他の授業スタイルも知りたい。 ・ペアやグループ学習などを取り入れ、積極的に校内研修などを実施して授業の向上を図っている。 ・取り組みに対してどういった方向性で行くのか個人的に迷っている。	A	・授業形態等も工夫しており楽しく分かり易い授業をするため、努力しているように感じる。 ・ペアやグループ学習の積極的な取入れ評価。 ・「学び合い」が活用されている。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・道徳の夏季研修を通して計画的に取り組めている。 ・授業だけでなく、外部講師との連携もはかり、よかった。学年やブロック、家庭で共通理解ができることが、子どもへの対応方法の1つとしてかかわることができる。 ・道徳など年間の指導計画に沿って授業を行っている。 ・おおむね実践している。	A	・子どもたちが自分の頭で考えて方向を決める習慣がつくとよいと思う。 ・道徳の年間指導計画に沿っての授業推進評価。外部講師との連携評価。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	C	・挨拶や丁寧な言葉遣いはできている子もいるが、なかなか指導していても直らない児童がいる。 ・挨拶をする児童は増えてきているが、言葉遣いに関しては、特に学童へ通っている児童から強い言葉がよく聞こえる。 ・昨年度より挨拶、言葉遣いがよくなっているがまだ課題は残る。・できている児童もいる。 ・教員が、積極的な挨拶・丁寧な言葉遣いで児童と接し、手本となることを継続して行う。 ・適切な言葉遣いや挨拶を児童と共に教員自身も心掛けていくことが大切である。 ・挨拶の声は大きくなったり、地域の人から褒められる機会もあった。家庭の協力を必要とする提出物や持ち物は、学年差がある。 ・挨拶ができない児童や言葉遣いの悪い児童がいる。教師も言葉遣いに気を付け、こちらからあいさつを積極的にしていくなど地道に指導している。 ・児童の手本となるように、職員が積極的にあいさつする姿は見られるが、進んであいさつをする児童はとても少ない。先生に対して、友だちのような言葉遣いをする児童が多い。教員はそのままスルーせず、その場で言い直させるなどすることが大切だと思う。 ・児童の挨拶・言葉遣いに課題があると思います。引き続き継続した指導が必要。忘れ物は家庭との協力も必要だが、事情がある家庭も多いので、連携の取り方に工夫が必要だと思う。 ・指導してもあいさつ・丁寧な言葉が定着していかない。 ・挨拶はされたらできるが自分からできる児童は少ない。時と場の区別がつかない児童も多く、いつでも丁寧な言葉遣いができないように感じる。 ・大人から挨拶をしても返ってこないときもあるが、諦めずにこちらから挨拶をしていく。また、言葉遣いに関しても、注意すれば一時的に治るため根気よく声掛けを行う。 ・1年生でも、口の悪い子や暴言を吐く子がいて驚く。大人が丁寧な言葉をかけ続けることが大事だと思う。 忘れ物に関しては、家庭の協力を得られない子もいるので、学校、教師が準備しておくことも大切だと思う。	B	・校内でのあいさつは大変すばらしい。学校の外でも大人達にあいさつできるようになるとさらに良い。 ・あいさつや言葉遣い改善しているが、まだ徹底していないこと要改善。但し家庭での指導も大事と考える。 ・あいさつをできる子が増えたように思う。子どもたちの手本となるよう気をつけたい。 ・一年を通して自分からあいさつができる子が増えたが基本的に「あいさつ」「ことば遣い」は自然に家庭で覚えるもの、学校に頼ることではない⇒保護者アンケート。以前行われていた縦割り班や委員会（高学年だけになってしまうが）ごとの「おはよう運動」をしてみてはどうか。 →代表委員会を中心に学期ごとに「あいさつ運動」実施している。3学期は、6年生が卒業前にも行う予定である。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。 （市共通項目）	B	・定期的に倫理委員会を開催し、関係資料を確認するなど職員に意識を持たせている。 ・必要なことは主任や管理職など迅速に伝えるべき相手に伝えられるようにする。そうしないと、対応が遅れることがある。（自分も含めて） ・相談される側の人間も、話しかけ安い雰囲気づくりに努める。 ・その都度風通しの良い職場になるよう働きかけていきたい。	B	・通学途中で交通事故が発生しないように、登下校中の子どもたちに走ったりふざけたりしないように指導したい。 ・定期的な倫理委員会開催しての研修評価。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。 （市共通項目）	B	・さくらルームなど個別の対応を行っている。 ・個に応じた支援に努めている。 ・遅刻や欠席の多い児童などに対して、家庭との連携に努め支援を行い。個に応じた支援を実施している。 ・その子に必要な支援を考え、期限を決める。 ・さくらルームの設置は一人ひとりを大切にする点でよいと思う。教員に負担がかかっていないか心配である。 ※さくらルーム…不登校傾向や教室に入れない子のための居場所づくりとして今年度より設置	A	・決められた時間内に登校できない子どももいるようだが親子で解決策を考えるようにしたい。 ・さくらルームの設置及び個別の対応評価。 ・「さくらルーム」良いと思うが担当する教員は決まっていたりするのか。児童1人に1教室あるのか？等もう少し説明がほしい。 →さくらルームは校内で1教室。全職員で関わっており、効果をあげている。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。 （市共通項目）	A	・研修なども含め、特別支援に関して充実している。 ・特別支援教育について充実している。 ・研修を重ね実践している。 ・特別支援学級と通常学級の交流を積極的に行い。研修を行うなど力を入れている。 ・研修を通じ、本校の特別支援教育を坂戸市内外に発信している。 ・就学支援員会を定期的に行っていく。全職員で学校全体の児童をみていく。 ・特別支援教育は、本学校にとって要だと思う。定期的に研修を行っているのもありがたい。 ・「学び合い」との両立が難しい。「この子がいるから、違う視点も見つけた。」はあるが、その視点を深める深い学びにつなげる児童がいるのか、支援をしたプリントが児童の対話を邪魔していないのかなど。 ・定期的に研修等を行っている。ユニバーサルデザインの視点をさらに取り入れたい。	A	・特別支援学級の授業も工夫をこらしていて良い。 ・研修などを含め特別支援教育の充実評価。 ・個々に合った指導ができている。中学校への移行へのむずかしさはないのか（通級児）。 →中学とは連携を図っており、児童が卒業後も安心して個に応じた支援を受けられるように配慮している。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	・定期的に備品等を購入できる環境にある。 ・定期的に安全点検を行い掲示を工夫するなど安心安全な教育環境の整備に努めている。 ・廊下のタイルの剥がれや天井など修繕も難しい部分が増えてきている ・清掃計画は十分でも、実施が不十分なところが見られる。清掃回数が減ったのも影響しているかもしれない。	A	・校内の用具の管理は整然と片付けられているように思う。 ・定期的な安全点検実施と掲示評価。清掃不十分は改善要。 ・清掃回数が減ったのはなぜ？支援級の前の通路が良くなりプランターも置かれている。 →清掃回数は減ったが、日課の工夫によるもの。短時間でも毎日できるようにしている。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	B A16.7 B83.3	・「学校だより」などを家庭に配布するなど情報を提供している。 ・ホームページの在り方も今後の情報公開全体の在り方と関連して時代に合わせた在り方を考えていく時期になっていると考える。	A	・学校だよりは校内での行事や今後の予定等判りやすく書いてあり良いと思う。 ・「学校だより」などの家庭への配布等の情報発信評価。ホームページの時代に合った作成必要。 ・ホームページ活用がされている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・各方面で連携を図っている。 ・見守りボランティアさんの日々の協力がありがたい。おかげで子どもたちが安全に登下校できている。 ・学習習慣が身に付いている児童が一定数いる。保護者会での呼びかけや本人への指導を継続して行う必要があると思う。教員の中でも温度差があるので、共通理解も必要と感じる。 ・地域・家庭との連携がさらにできるとよい。	B	・コロナも少しおちついて地域の人達と児童のふれあいが再開できることを願う。 ・各方面での家庭及び地域との連携評価。 →制限もなくなり、各学年が体験活動を意図的に行ったので、子どもたちの学びにつながった。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	・近隣の中学校と定期的に連絡会を行っている。 ・情報交換会を生かした実践を行っている。 ・中学校区での合同研修を行い、児童理解や特別支援教育を進めている。 ・小中連絡会の在り方を検討していきたい。（授業公開はどのような視点で何をみるのか等）	B	・運動会や文化祭等中学校と共同で開催してはどうか。 ・近隣の中学校との定期的な連絡会及び合同研修評価。 ・桜中との交流（特に6年生）がもっとあっても良いのではないか（体育祭等への参加）。→桜中の教員による授業（6年）や保育園と交流（1年）等、連携を行った。